

公益財団法人日本バスケットボール協会

2026 年度 7-6 月期事業方針

事業方針策定にあたって

2026年度は、JBA創立100周年を迎える2030年に向けた重要な一歩を踏み出す年であり、「Japan Basketball Standard (JBS) 2025」が掲げる36の行動と状態を具現化するため、その土台となる「型」をつくる1年と位置づける。

具体的には、まず2028年のLA（ロサンゼルス）オリンピックを見据えた日本代表強化を進めつつ、マーケティング、育成、普及、ブランディング等で各部門がバスケットボールの価値向上に邁進し、それらが有機的に連携する総合的な枠組みを構築する。

あわせて、組織基盤とガバナンスの強化は必須であり、引き続きDXの積極活用を推進し、PBA（都道府県バスケットボール協会）および関連団体との強固な連携体制を確立する。

また、2030年のFIBA女子ワールドカップの招致は、単なる国際大会の招致にとどまらず、「ONEバスケットボール」として新たな価値を創出し、社会に貢献する絶好の機会と捉え、開催に向けた環境整備やネットワーク構築の全行程を日本バスケットボール界の成長へと繋げるべく努める。

2026年度は、この意義を全組織に浸透させ、マインドを変革し、組織としての真の成長を遂げる1年とする。

事業方針（骨子）

1. 信頼され、選ばれる競技団体への進化

2030年でのJBS実現に向け、日本バスケットボール界の持続的な普及・発展とともに社会課題の解決に寄与すべく、組織基盤および環境の整備を進める。

まずはガバナンスの強化を推進し、中央競技団体のガバナンスコードを遵守しつつ、独自の自浄作用を組み込んだ「公益法人のあるべき姿」を追求する。

これからも「選ばれるスポーツ団体」であり続けるため、体制・規程・意識改革を実行し、社会との強固な信頼関係を築いていく。

2. 世界で勝つための強化戦略的ロードマップ

新強化体制の下、男女それぞれのマイルストーンを明確にし、日本代表強化と育成を加速させる。

男子は2028年LAオリンピック出場への直結ルートとなるFIBAワールドカップ2027に向けた強化を徹底し、結果を出す。女子は9月のFIBA女子ワールドカップ2026での躍進、およびオリンピック出場権獲得に向けた最適戦略を策定し、実行する。

あわせて男女とも8年後、12年後を見据えた中長期的な視点の下で、世界基準の選手を輩出し続けるための環境整備と、強化育成活動を展開する。

3. 2030年FIBA女子ワールドカップとJBSの実現

2030年FIBA女子ワールドカップ開催を軸に、JBSが掲げる行動と状態を具現化し、「女性活躍の推進」、「サステナブルな環境整備」、「ONEバスケットボールでの価値創造」をバスケット界全体の共通目標として浸透させる。

その活動において、PBA、関連団体、スポンサー、メディア等全てのステークホルダーと連携し、新たな「バスケットボールの価値創出」、「ファン層の獲得」、「ブランディングとマーケティング戦略」を推進させる。

4. 適切な財務運用と持続可能な成長を支える財政基盤の構築

JBA 創立 100 周年とその先の未来を支えるため、健全かつ戦略的な財務マネジメントを確立する。
新たなマーケティング戦略により、財政基盤を強固にするとともに、精緻な管理体制の下での透明性の高い予算運用と精度の高い財政計画に基づき、適切な予算執行を行う。

主要活動

【1】日本代表関連

1. 全カテゴリー共通

- (1) 12 年単位の中長期視点での強化推進
- (2) 世界基準の強化とともに、若手選手の強化・育成およびスタッフ体制の構築・人材育成を推進
- (3) より強固な海外ネットワークの構築による日本国籍を有する有望長身選手等の発掘推進

2. A 代表

- (1) 2027 年ワールドカップ、2028 年 LA オリンピックに向けての強化体制構築
- (2) 2028 年 LA オリンピック、2032 年ブリスベンオリンピックに向けた若手選手の強化育成推進
- (3) トップリーグを含めた年間試合数と代表活動の調整および国際強化試合の確保と海外組との連携強化
- (4) 日本国籍を有する海外在住の選手発掘および帰化許可申請に関する整備の働き掛けの継続

3. アンダーカテゴリー代表

- (1) アンダーカテゴリーの指導者育成への注力、国際大会出場による選手の経験値向上
- (2) 大型選手の強化、ユーティリティプレイヤーの養成、海外の日本人パスポート保持者のタレント発掘活動
- (3) 継続的な A 代表強化に向けた、アンダーカテゴリー選手の強化と A 代表との連動・連携

4. 3x3 代表

- (1) 2028 年 LA オリンピックの出場権獲得・メダル獲得に向けた 3x3 代表強化活動の推進
- (2) 「競技力の向上」と「ポイント獲得」のための世界転戦活動および各種強化活動施策の推進
- (3) 2032 年ブリスベンオリンピックを見据えた 3x3 選手の発掘・育成と強化システム構築に向けた検討や取り組み

【2】国際

1. FIBA/FIBA Asia との緊密な連携維持

- (1) FIBA 本部および FIBA アジアオフィスとの強固な関係継続
- (2) 男女アジアクラブ選手権に向けた連携強化
- (3) 訪問、会議（オンライン含む）等による情報収集・意見交換等
- (4) 役員、委員の輩出に向けたロビー活動

2. 日本代表チーム支援

- (1) ワールドカップ（男子 2027、女子 2026）に向けた世界強豪国との強化試合の調整等
- (2) FIBA 公式大会出場時のチーム登録業務のサポート
- (3) 男女日本代表チームの側面的支援（海外遠征等のサポート含む）

3. 他国 NF との連携強化

- (1) 既存のパートナーシップ提携国（ドイツ・オーストラリア）との関係強化
- (2) 新たなパートナーシップ提携国の模索、他国との交流推進

4. 国際交流・協力事業に向けた関連団体との連携強化

- (1) スポーツ庁、外務省、JOC、JICA 等との国際協力事業展開の検討
- (2) 在外日本国大使館、駐日外国公館等との交流

【3】 育成

1. 中長期視点および一気通貫に基づき世界基準の選手を輩出し続けるための育成環境の整備

- (1) 8 年後、12 年後を見据えた各カテゴリーにおける競技力向上に資する施策検討
- (2) 有望選手の発掘と育成パスウェイの強化
- (3) 指導者の質の向上と意識改革

2. 年代別育成方針の構築とシステムの確立

- (1) マネージャー会議・コーチ研修を通じた都道府県育成センター（DC）の活動支援・価値向上への取り組み促進
- (2) ブロック DC・講習会等を通じた選手発掘指標の周知や保護者講習等のプログラム提供
- (3) マンツーマンディレクター会議や映像資料を通じたマンツーマン推進の取り組みの継続

3. 組織連携と情報発信の戦略的強化

- (1) 育成に関する情報の効果的な発信と共有機会の提供
- (2) 広報担当をはじめ競技運営担当やコンプライアンス推進担当等、他部署と連携した情報発信
- (3) テクニカルレポート（育成年代へ届けたいメッセージ）・育成環境ガイドラインの周知・理解促進

【4】 指導者

1. 各種講習会、研修会の開催

- (1) 各種講習会、研修会の開催に向けた計画・調整、実施・運営、改善提案
- (2) 各講習会のカリキュラムの見直し、改善検討

2. コーチライセンス制度の質の向上と今後に向けた取り組み

- (1) 現行のコーチライセンス制度の検証
- (2) よりよい環境構築のための制度・施策の検討

3. コーチ登録者数拡大に向けた施策

- (1) 対象者別（女性コーチ、若手）の各施策の検討と推進
- (2) コーチライセンスの普及・認知向上

4. PBA との連携および支援

- (1) 各 PBA 指導者養成委員会との連携・情報共有
- (2) 各 PBA での指導者養成事業の推進・支援

【5】 審判

1. 審判・審判インストラクターライセンスの国内統一プログラム・カリキュラムの継続構築

- (1) ライセンスに応じた講習会プログラムの継続構築
- (2) インストラクターの指導力向上を通じた競技規則の理解・審判技術の向上

- (3) 全国統一の評価基準によるライセンス認定、評価の実施
- (4) 割当て機会の改善による A 級・B 級審判員の活躍推進
- (5) 各リーグの将来構想を見越したトップリーグ担当審判員のレベルアップに向けた研修の実施

2. 審判登録者拡大および多様性受容のための施策

- (1) 女性審判員のライフプランに対応した環境整備
- (2) U18・U22 審判員の拡大に向けた環境整備
- (3) 競技者・指導者の審判ライセンス取得推進を通じた競技の理解促進
- (4) 審判間の相互尊重、審判の役割への尊重推進
- (5) 審判活動の魅力、競技規則の普及と理解促進のための発信（JBA によるウェビナー実施、映像資料の充実）

3. 海外協会とのパートナーシップ提携も踏まえた人材交流の実施

【6】 競技・運営

1. 日本代表戦／各種大会の価値向上および安定的な大会運営

- (1) JBA 主管大会における効率的な大会運営の追求
- (2) FIBA 主催試合における FIBA との綿密な連携および円滑な大会運営
- (3) 天皇杯・皇后杯の大会運営および大会価値向上
- (4) Jr. ウインターカップの安定的な運営および大会参加資格等の整理
- (5) 全国ミニ大会における特別ルールを導入および今後の運用検討
- (6) JBA 主管大会の戦略的・安定的なベニュー確保

2. 各種大会の管理・サポート業務

- (1) 競技会委員会の機能充実と各種競技会の管理体制の整備
- (2) PBA 競技委員会の活動（要項整備、国内競技会申請、国際交流試合実施申請の運用整理およびデジタル化推進等）に対する支援体制の充実
- (3) JBA 以外の団体が主管する全国大会（国民スポーツ大会、インターハイ、全国中学校体育大会等）の運営支援・連携の強化
- (4) 競技会委員会における競技会カレンダー調整機能の整備
- (5) 競技環境の充実に向けた各種規程の整備
- (6) バスケットボール用器具規格やユニフォーム規則の整備・見直しを通じた競技環境の充実

3. TO／スタッツ／コミッショナーの強化・育成・指導体制の確立（3x3 を含む）

- (1) JBA および PBA の TO 委員会組織体制の強化
- (2) 都道府県における TO の普及育成に向けた取り組みの強化
- (3) TO マニュアルの普及と TO 基礎講習（e ラーニング）の受講推進への取り組みの強化
- (4) A 級・B 級 TO ライセンス制度の整備・運用と FIBA ライセンスの管理
- (5) TO インストラクターの養成を通じた都道府県 TO 講習会の活性化
- (6) 全国 TO インストラクター講習会およびブロック別 TO インストラクター更新講習会の実施
- (7) FIBA TO／スタッツライセンス取得へ向けた仕組みづくり
- (8) TO の人材確保と実務能力の維持・向上に向けた取り組みの強化

4. 3x3 競技の普及、競技環境の整備および日本代表強化へ繋がる競技大会の実施

- (1) 日本選手権（U18）の大会価値向上、PBA における予選大会の開催支援
- (2) 日本選手権（OPEN）の大会価値向上、オーガナイザーに対する STOP 大会の推奨
- (3) 特に若年層（U12、U15、U18）および U23 世代の競技普及に向けた各種活動の強化
- (4) 国内大会の競技環境整備に向けたオーガナイザー登録制度の方針策定と推進

5. U18 年代の競技環境を競技・事業の両輪で戦略的に発展

- (1) U18 カテゴリーの全国／ブロック／都道府県における競技会および普及・プロモーション等の方針策定
- (2) U18 日清食品リーグの方針策定と運営やプロモーション
- (3) ウインターカップの方針策定と運営やプロモーション

【7】 普及・啓発活動

1. ドーピング防止活動

2. 登録／バスケットボール推進活動

- (1) 学校体育への取り組み
- (2) 登録推進活動
- (3) 競技者人口拡大に向けた各カテゴリーの競技環境の整備
- (4) 普及施策の検討・推進・実施
- (5) 登録システムの管理・運用および改善
- (6) 競技者数の増加に向けた具体的方針策定と実施（バスケットボールチャレンジデー／PBA 向け CMS 開発／生涯バスケ部）

3. バスケットボールにおける「暴力・暴言・ハラスメント行為等根絶」に向けた活動

4. ONE BASKETBALL 推進部会の設置

5. JBS の浸透、運用および進捗管理

6. デジタルコミュニケーション戦略構築

7. AKATSUKI VENUS[®]による各種普及・社会貢献活動

【8】 認定・登録管理

1. 各種ライセンスの認定（コーチ、審判、TO）

2. 各種登録の管理（コーチ、審判、TO、チーム、競技者（3x3 を含む）、エージェント）

3. 施設、用具、器具の検定および認定

【9】 組織運営

1. 組織基盤の強化

- (1) コンプライアンスの推進
 - ① 暴力行為等通報窓口の適正な運営
 - ② 暴力・暴言・ハラスメント行為等の未然防止および適正な懲罰手続きの実施
 - ③ コンプライアンス関連規程類の整備

- (2) 中央競技団体ガバナンスコードへの対応

2. PBA、Bリーグ、WJBL、各種連盟、協力団体等との連携強化

- (1) 全国専務理事連絡会、PBA 連絡会等を通じた組織基盤の強化、D-fund による運営支援および活動推進
- (2) 日本社会人バスケットボール連盟（JSBF）、全日本大学バスケットボール連盟（JUBF）の事業推進のサポートおよび組織基盤の強化に向けた規程整備の指導等
- (3) 日本障がい者バスケットボール連盟（JIBF）加盟団体の活動推進および JIBF 事務業務の実施
- (4) 協力団体（全国高体連専門部、全国高体連定通制部専門部、全国高専連合会専門部、日本中体連、全国専門学校連盟ほか）との定例会議の開催および連携
- (5) 全国/ブロック/都道府県のアンダーカテゴリー（U12、U15、U18）における活動の推進および会議体の開催
- (6) ブロック協会およびブロック事業に対する支援および連携強化

3. 一般スポーツ団体ガバナンスコード対応への指導およびサポート

- (1) PBA、WJBL、JSBF、JUBF におけるガバナンスコード対応への指導およびサポート

【10】 事業

- 1. 日本代表および JBA 主管大会プロパティーを活用したブランディング**
- 2. 日本代表戦や JBA 主管大会における戦略的チケットングの実践**
- 3. ファンクラブ、マーチャндаイジング等、ファンマーケティングの実践と強化**
- 4. 協賛・放送パートナー等の満足度向上と新規協賛パートナーの獲得**
- 5. 公式映像を通じた、バスケットボールの普及とコンテンツ価値の向上**

【11】 広報・プロモーション

1. バスケットボール界全体の露出強化

- (1) 各カテゴリー日本代表の認知度・価値向上に寄与する露出拡大
- (2) 天皇杯皇后杯、ウインターカップ、U18 日清食品リーグを始めとする JBA 主催・主管大会の価値向上、出場選手等のみならず、各種ステークホルダーに対する満足度向上への寄与
- (3) LA オリンピックに向けた中期計画に基づく 3x3 の競技普及および価値向上に向けた広報体制の強化
- (4) B リーグ／WJBL／PBA 他、各種団体等と連携した ALL バスケットボール体制での広報連携の実現

2. バスケットボールの普及振興および競技者・指導者等の登録推進に寄与する広報活動

- (1) 全国の「する」「みる」「ささえる」「携わる」方々に対する速やかかつ適切な情報の公開・伝達、および満足度向上への寄与
- (2) 映像、静止画、テキスト、過去大会の記録等の JBA 所有の素材財産を効果的に利用した、各種情報のコンテンツ化の促進

3. 日本代表および JBA 主管大会プロパティーを活用したブランディング

4. 放送パートナーの満足度向上

以上